資料４－２

■軽井沢町版レッドデータブック策定関連イベント 自然観察会の開催について

1 自然観察会の概要

(1) 開催状況

軽井沢町版レッドデータブックの策定について町民への周知を図るため、自然観察会を開催した。イベントは、6 月と 7 月の計 2 回実施し、のべ 54 名が参加した。

なお、第 1 回目の観察会は、台風の影響により屋外での開催可否の判断が難しかったため、当日朝に現地確認を実施し、前半を屋内（軽井沢発地市庭イベントスペース）、後半に屋外（風越鷲穴半自然草原）を散策するプランで実施した。

表 1 自然観察会のプログラム

■第 1 回自然観察会　軽井沢の草原で探る！生きものたちのくらしとつながり						参加人数
日時	令和 8 年 6 月 27 日（土） 9：00～12：00	場所	軽井沢発地市庭イベントスペース 風越鷲穴半自然草原	講師	栗岩竜雄氏 新井勝利氏	22 人 (9 組)
内容	・前半：町内に生育する草原性の植物や草原に生息するチョウ類について学習（座学） ・後半：風越鷲穴半自然草原にて、草原の成り立ちについて解説をいただいた後、草原の植物やそれらを利用するチョウ類などを観察し、草原環境の重要性などについて学習					
■第 2 回自然観察会　軽井沢の田んぼで探る！人のくらしと生きものとのつながり						参加人数
日時	令和 8 年 7 月 11 日（土） 9：00～12：00	場所	軽井沢発地ホタルの里周辺 （水田・水路・発地川）	講師	石塚徹氏 清水高男氏	32 人 (13 組) ※55 名の申込があったため抽選を実施
概要	・発地周辺の成り立ちなどについて解説をいただいた後、2 班に分かれて水田周辺と発地川それぞれで生きもの採集を行い、捕まえられる生きものの違いや、種ごとの形の違いなどを観察 ・まとめでは、人の営みと環境が繋がっていること、多様な環境があることの重要性などについて学習					

(1) 当日資料

観察会ごとに、確認した生き物の種名の記録や模様などのスケッチができる配布資料（フィールドノート）を作成し、参加者に配布した。また、内容の一部については A1 パネルに拡大し、当日の解説資料としても使用した。



第 1 回配布資料



第 2 回配布資料



パネルを用いた解説の様子

2 当日の様子

■第 1 回：6 月 27 日　風越鷲穴半自然草原



屋内会場の展示
（第 1 回）



新井園長による解説
（第 1 回）



栗岩氏による解説
（第 1 回）



草原の成り立ちについて解説
を聞く（第 1 回）



屋外での生きもの観察
（第 1 回）



パネルを用いてレッドデータ
ブックを紹介（第 1 回）

■第 2 回：7 月 11 日　発地川、ホタルの里周辺の水田・水路



発地の成り立ちについて解説
（第 2 回）



田んぼの生きもの採集
（第 2 回）



発地川の生きもの採集
（第 2 回）



捕まえた生き物の仕分けや解説
（第 2 回）



水路で捕れた生きもの観察
（第 2 回）



まとめの解説の様子
（第 2 回）

3 アンケート結果

観察会終了後、生きものに対する気持ちの変化やレッドデータブックに関する意識について参加者にアンケート調査を実施した（回答組数：21 組）。

その結果、観察会を通じて約 67%の参加者が「自然観察の面白さに気づいた」と回答したほか、「（生きものを）もっと大切にしたい」と感じた参加者が約 62%いた。

また、レッドデータブックに対しては、約 76%の参加者が「生きものを守るために必要」と答えた。

以下に、アンケート結果を示す。

(1) 観察会に参加しようと思った理由（複数回答可）

「自然や生き物が好きだから」の約 62%が最も多く、「内容が面白そうだった」が 57%と次いで多かった。また、回答者の約 24%は「レッドデータブックに興味があった」ことが参加動機であったと回答した。

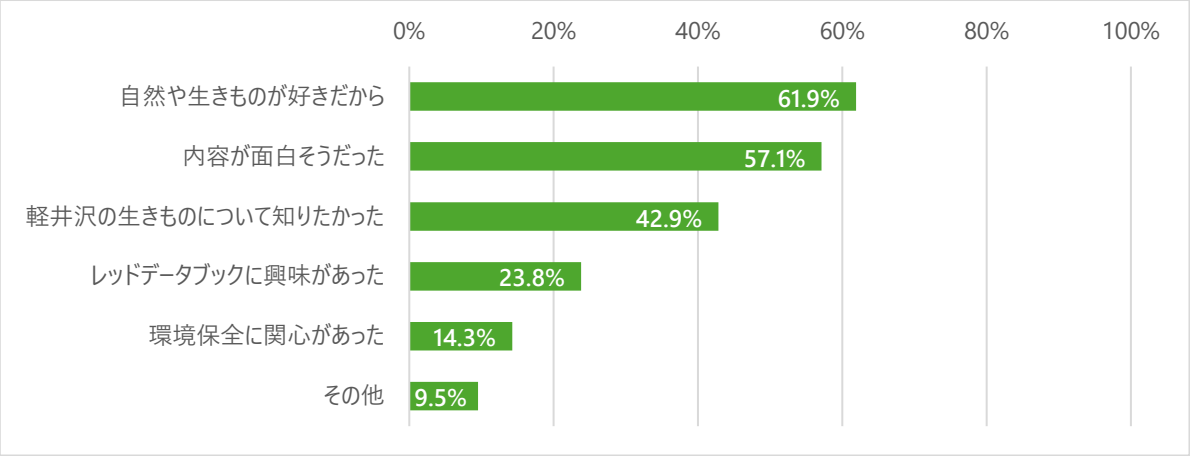


図 1　観察会への参加動機（n=21）

(2) 観察会への参加により知ったこと・気づいたこと（複数回答可）

観察会に参加したことにより「自然観察会の面白さ（を知った）」との回答が約 67%と最も多く、「身近な場所にもたくさんの生きものがくらしていること」が 57%と次いで多かった。

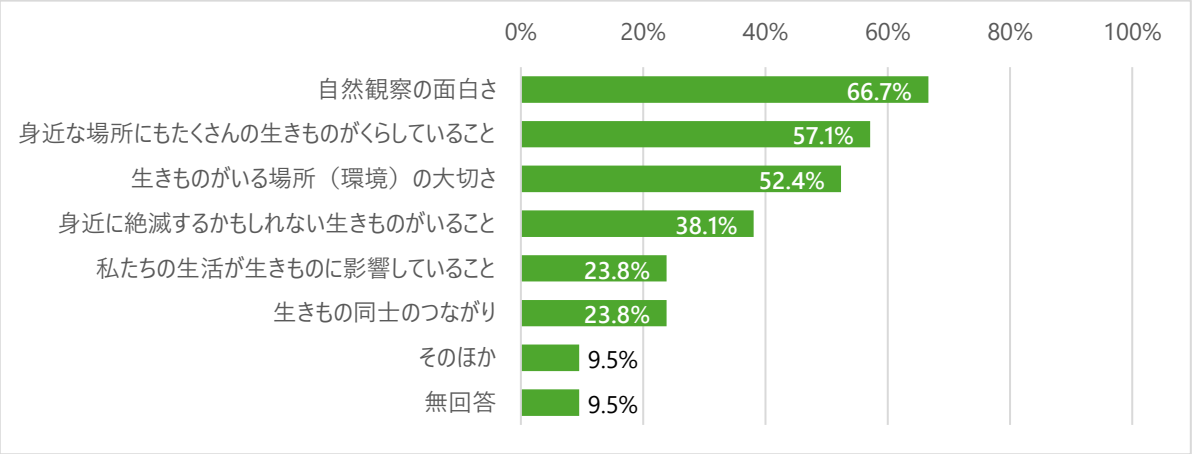


図 2　観察会への参加による気づき（n=21）

(3) 観察会への参加による自然や生きものへの気持ちの変化（どれか 1 つを選択）

「もっと大切にしたい」と感じた参加者が約 62%と最も多かったほか、もっと学びたい・調査をしてみたい等、自発的な活動への意欲が高まったと回答した参加者が約 57%であった。

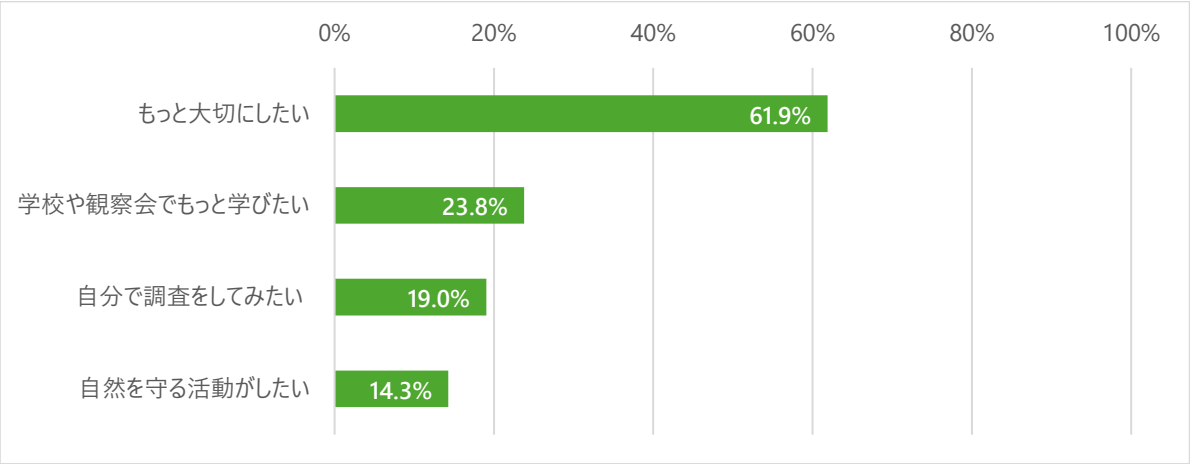


図 3　自然等への気持ちの変化（n=21（一部、複数回答を含む））

(4) レッドデータブックに対する意識（複数回答可）

「レッドデータブックについては、観察会の参加者の約 76%が「生きものを守るために必要」と回答しており、今回の観察会を通して、レッドデータブック策定の主な目的である「絶滅のおそれのある野生生物の現状把握」及び「保全対策の基礎資料としての活用」について参加者の理解が深まったことがうかがえた。

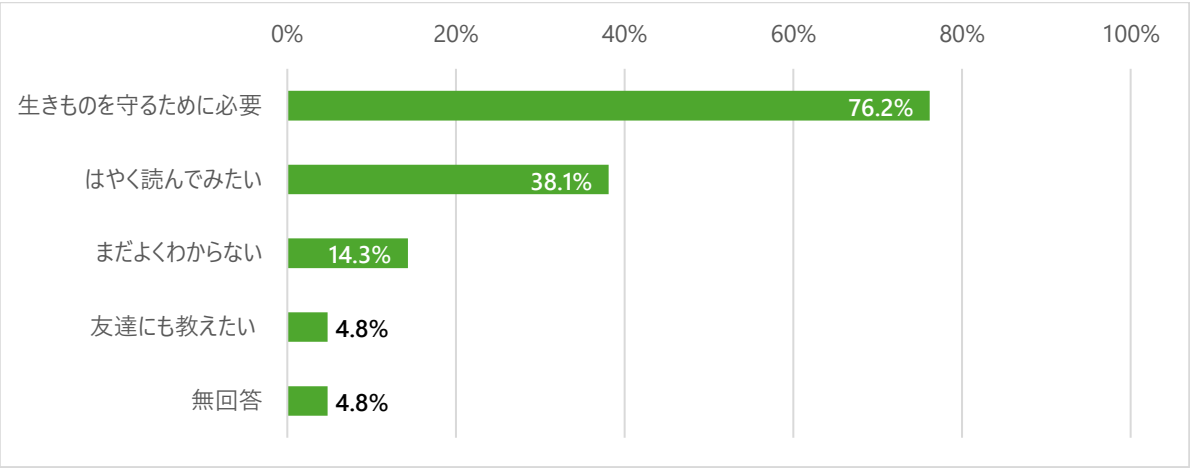


図 4　レッドデータブックへの意識（n=21）

(5) 自由回答

参加者には、「当日一番印象に残ったこと」や、「町の自然や生き物を守るためにできること」について自由回答をいただいたので、以下に抜粋して紹介する。

① 当日一番印象に残ったこと

【第 1 回】

- 名前を知らない地味な植物は「雑草」にされてしまいがち。知ることの大切さを感じた。
- 植物（花）と虫は一連のこととして守りたい。
- 風越に、このような場所があるのが知れたこと。

【第 2 回】

- 河川ごと、石をどかしたらすぐにエビなどがいることがすごいと思った。身近な所で、生きものたちがいるんだなと思った。
- 川でいっぱい生き物を捕まえられたこと。自分で触れたこと。
- タガメが軽井沢で絶滅したということ。

② 町の自然や生き物を守るためにできること

【第 1 回】

- 知ることが最も必要と思った。虫と植物の関係を知るだけでも、自然をどのように守るべきかを考えることができると思った。
- ここのように保全する土地が必要と感じました
- まずは知識を身につけないと、守る事も出来ないなと感じたので、このような会にまた参加したいと思う。

【第 2 回】

- 虫をすぐにころさない。/虫をあまりとらない。
- 環境を整える。生きものについて知る。
- 家に虫が入ってもころさないようにする。

(6) 参加者属性

① 参加者の年齢層

参加者は 10 代以下が最も多く、次いで保護者世代となる 30～50 代の参加者が多かった。

② 参加者の居住地・別荘所有地（大字名）

大字長倉からの参加者が最も多く、そのほか、大字追分・中軽井沢・大字軽井沢・軽井沢・軽井沢東から参加していた。